

卵巣がん

卵巣がんは、片方または両方の卵巣の外層、その付近、あるいはその上にがん細胞が発生することで発症します。

この希少でありながら攻撃的な疾患は、女性のがん死で5位にランクされ、女性生殖系の他のがんよりも多くの死亡者数を占めています。



徴候と症状

自分の身体に気を配り、自分にとって何が正常なのかを把握します。

卵巣がんは以下の徴候のうち1つ以上が生じる可能性があります。

- 膣からの出血（特に閉経を過ぎている場合）または膣から通常とは異なる分泌物が出る
- 骨盤または腹部の疼痛または圧迫がある
- すぐに満腹になる、または食事を摂るのが難しくなる
- 頻尿や尿意など、トイレの習慣に変化が起きる
- 背部痛
- 腹部膨満感



リスク因子

すべての女性に卵巣がんのリスクがありますが、高齢の女性ほど発症する可能性が高くなります。

卵巣がんは閉経後に発症することが多いです。

- 太り過ぎまたは肥満
- 遅い年齢で出産した、または満期妊娠をしたことがない
- 閉経後にホルモン療法を受けている
- 卵巣癌、乳癌、または大腸癌の家族歴があるか、家族歴があった
- 不妊治療を行っている
- 喫煙
- 子宮内膜症に罹患している



予防

- 健康的な体重を保つ、または閉経後にホルモン補充療法を受けない
- 経口避妊薬（避妊薬）を5年以上服用する
- 婦人科手術：卵管結紮（卵管を結んだ状態）、卵巣摘出、子宮摘出（子宮を除去する）
- 家族に卵巣がんの既往があれば、遺伝カウンセリングや検査を検討する



統計

ハワイ大学がんセンターの研究によると、ハワイ先住民の女性は白人女性に比べて卵巣がんのリスクが36%高かったことが示されました。

アジア系民族の中では、アジア系インド人/パキスタン人の卵巣がんの発症率が最も高いことが示されました (Lee et al., 2019)。

中国、フィリピン、および日本の女性は、明細胞卵巣がんの発症率が有意に高くなっていました。 (Lee et al., 2019)

卵巣がんのスクリーニング検査：

卵巣がんのスクリーニング検査のための簡単で信頼できる方法は今のところ存在しません。信頼できる検査が存在しないため、自分の身体に気を配り、自分にとって何が正常なのかを把握します。

正常でない体の変化に気づいたら、かかりつけ医に相談しましょう。

卵巣がんの原因不明の徴候や症状がある場合、直腸膣骨盤検査、経膣超音波検査、CA-125 血液検査などの診断検査を受ける必要があるかどうかを医師に尋ねてください。

このような検査は、卵巣がんの発見や除外に役立つことがあります。

(From the Centers for Disease Control and Prevention)

リソース

- **Ovarian Cancer Research Alliance:** ocrahope.org
- **National Ovarian Cancer Coalition:** ovarian.org
- **National Cancer Institute:** cancer.gov
- **American Cancer Society:** cancer.org/cancer-information-in-other-languages.html
- **'Imi Hale Native Hawaiian Cancer Network:** imihale.org/education_materials.htm#CancerScreening
- **Asian American Health Initiative:** aahinfo.org/english/programs/progCancerInit.php#cprogram
- **California State University, Fullerton:** wincart.fullerton.edu/cancer_edu/index.htm